

### 弥生時代の土器棺墓



#### ② 原遺跡（名取市）

原遺跡は弥生時代から中世まで続いた遺跡です。今回調査した地区では弥生時代中期（約2,000年前）の土器棺墓が17基発見されました。これらは大型の墓の口を土で被せて埋納しているもので、乳幼児のお墓と考えられています。

V-1-⑥

### 泉遺跡

泉遺跡は、愛島の東側に広がる丘陵（丘のようになったところ）にあります。

この遺跡のある場所には、宮城県警察学校や大きな団地をつくる工事が行われることになり、平成6年から平成14年まで発掘調査が行われました。

縄文時代の前期（約5500年前）ごろまで泉遺跡のある愛島丘陵のすぐ近くまでが海だったと考えられており、それを証明するように、この時代の遺構や遺物が最も多く見つかっています。

そのほかにも、泉遺跡では、弥生時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が見つかりました。

V-2-①

### 縄文時代

この時代の遺構や遺物が最も多く見つかりました。特に、縄文時代前期（今から約5500年前）のものが多く、竪穴式住居のあとや土器、焼土跡などがたくさん見つかりました。また、遺物では、縄文土器や石器などが見つかっています。

### 弥生時代

弥生時代の遺構としては、竪穴式住居のあとや土器墓が見つかりました。また、遺物では、弥生土器や石器、菅玉などが見つかっています。

### 古墳時代

丘陵の南側で、古墳が見つかりました。また、竪穴式住居のあとや懸立柱建物などの遺構も見つかっています。遺物では、土師器が見つかっています。

### 江戸時代

丘陵上の高い部分に沿って、江戸時代ごろのものと推定される溝のあとが見つかりました。この溝跡ここでは、土をつぎ固めてでこぼこを曲していたようなあとが見られました。

V-2-②